

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 登録実用新案公報 (U) (11)実用新案登録番号
実用新案登録第3081579号
(U3081579)

(45)発行日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(24)登録日 平成13年8月22日(2001.8.22)

(51)Int.CI⁷ 識別記号

A 6 1 B 17/00
17/34

F I

A 6 1 B 17/00
17/34

320

17/34

評価書の請求 有 請求項の数 10 L (全4数)

(21)出願番号 実願2001 - 2768(U2001 - 2768)

(73)実用新案権者 399019205

松田医科株式会社

東京都千代田区外神田2丁目17番2号

(22)出願日 平成13年5月7日(2001.5.7)

(72)考案者 小関智明

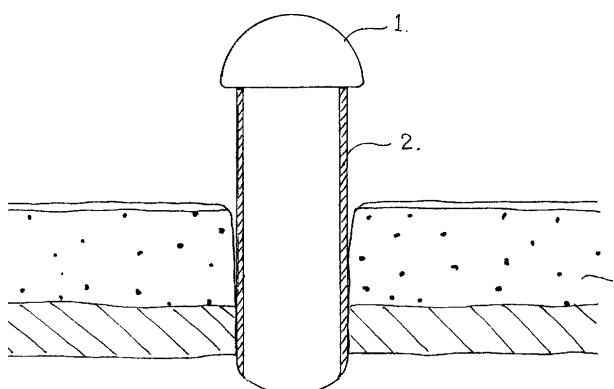
東京都豊島区駒込7丁目7番3号

(54)【発明の名称】 内視鏡手術用軟部組織剥離棒

(57)【要約】

【課題】少人数で簡便に低侵襲で軟部組織を剥離する。

【解決手段】先端が丸めてある円柱の棒の後端に半球状のグリップを付け、円柱はトラカール内にフィットし、トラカールに挿入しながら皮下の軟部組織を剥離する内視鏡手術用軟部組織剥離棒を提供する。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】先端が丸めてある円柱の棒の後端に円柱の直径より大きいサイズの半球状のグリップが円柱断端面に球断面と接合する状態で付いており、全体としてはキノコ状の形状を呈し、円柱の外径はトラカールの内径よりやや小さいサイズであり、トラカールに挿入しながら皮下の軟部組織を剥離する内視鏡手術用軟部組織剥離

2

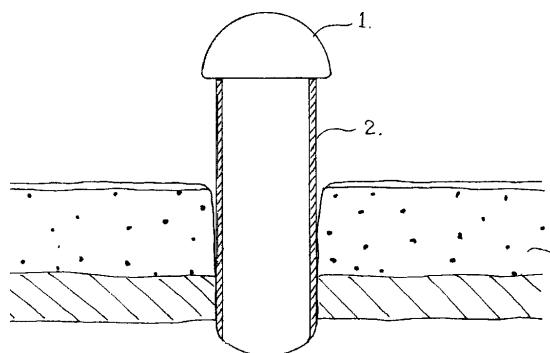
棒。

【図面の簡単な説明】**【図1】軟部組織を剥離した断面図****【符号の説明】**

1 軟部組織剥離棒

2 トラカール

3 軟部組織

【図1】

【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は内視鏡手術において、皮下の軟部組織を剥離する器具に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

内視鏡手術は近年手術件数が増加傾向にあるが、手技の進展に器具の開発が伴わないケースが多い。内視鏡手術を行う際、器具や内視鏡を挿入するためのポートと呼ばれる穴にトラカールと呼ばれる筒を挿入する。特に脊椎内視鏡手術の場合、皮膚を切開しても皮下は脂肪や筋組織に覆われており、術野に到達するためにはこれらを避けて術野を確保しなければならない。通常これら軟部組織と呼ばれる脂肪や筋組織を剥離するには、鈎を用いて助手が組織を引っ張っていたり、場合によっては電気メスによる切開を加えなければならない。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

助手が鈎を持つためだけに手洗いを行い入室することは合理的ではない。また手術室の中はできるだけ少人数のスタッフが入室するようにすることが感染防止上必要である。電気メスによる切開は手間がかかる上、本来低侵襲手術であるはずの内視鏡手術の概念にそぐわない。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案はこれらの問題点を解決すべく、先端が丸めてある円柱の棒の後端に円柱の直径より大きいサイズの半球状のグリップを円柱断端面に球断面と接合する状態で付いており、全体としてはキノコ状の軟部組織剥離棒の形状とした。円柱の外径はトラカールの内径よりやや小さいサイズであり、トラカールの内径にフィットするようサイズを設定した。この軟部組織剥離棒はトラカールに挿入すると先端がトラカールの先から突出する長さに設定されており、トラカールと一緒に上から回すようにして押し込むと周囲に損傷なく軟部組織が剥離され、軟部組

織剥離棒を抜き去るとトラカール内に良好な視野が確保される。

【0005】

【考案の実施の形態】

図1は、トラカール内に軟部組織剥離棒を挿入し軟部組織を剥離した図である。軟部組織剥離棒はトラカールに挿入するとトラカールの先から半球状の先端が突出する長さに設定されている。円柱の外径はトラカールの内径よりやや小さいサイズであり、トラカールの内径にフィットする。後端は円柱の直径より大きいサイズの半球状のグリップが円柱断端面に付けてあるので、トラカールと一緒に上から回すようにして押し込む操作がしやすい。軟部組織剥離棒の素材としては金属製であればステンレスSUS304、SUS330、SUS420J2、真鍮等が適している。ABS、ポリプロピレン等の樹脂を用いて製造すると使い捨てディスポーザブル製品となる。

【0006】

【考案の効果】

以上説明したように本考案による軟部組織剥離棒を用いて内視鏡手術を行うと少人数で簡便に低侵襲で軟部組織を剥離できる。

专利名称(译)	内视镜手术用软部组织剥离棒		
公开(公告)号	JP3081579U	公开(公告)日	2001-11-09
申请号	JP2001002768U	申请日	2001-05-07
[标]申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
当前申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
[标]发明人	小関智明		
发明人	小関智明		
IPC分类号	A61B17/00 A61B17/34		
FI分类号	A61B17/00.320 A61B17/34		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：轻松地剥除少数人的软组织，并且具有低侵袭性。解决方案：半球形手柄连接到圆柱形杆的后端，圆柱形杆具有圆形尖端，并且圆柱体装配在套管针中，用于内窥镜手术的软组织在插入套管针时被剥离。提供剥离棒。

